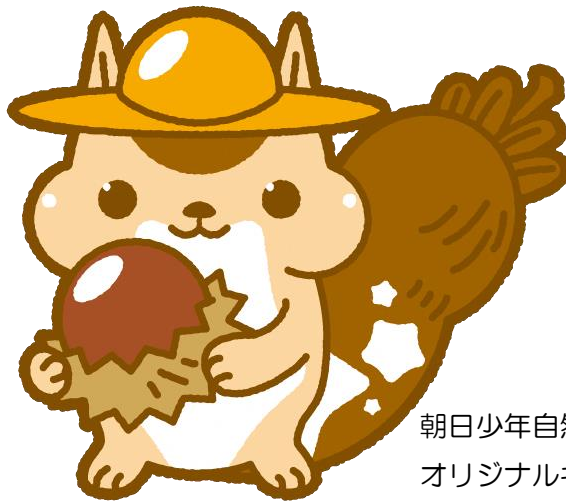




子どもたちの安全確保のための
『リスク・マネジメント』



朝日少年自然の家
オリジナルキャラクター

プラたん

山形県朝日少年自然の家

1. リスク・マネジメントとは…

野外における体験活動には、多くのリスクが潜んでいます。

- ①植物等に関わるリスク …ウルシ、毒キノコ、枯れ木の落下、倒木 等
- ②動物等に関わるリスク …ツキノワグマ、イノシシ、スズメバチ、毒ヘビ、ブヨ、マダニ 等
- ③気象等に関わるリスク …落雷、豪雨 等
- ④その他のリスク …熱中症、火傷、切り傷や刺し傷、骨折、感染症 等

子どもたちの安全を確保するには、次の2つについて、念入りに事前指導や事後の対策を検討しておくことが重要です。

① 様々なリスクを「事前に回避」しておくこと

② 万が一の場合に「被害を最小限に食い止める」こと

この2つの側面を合わせて『リスク・マネジメント』と言います。

2. リスク・マネジメントの実際

(1) 事前の準備や点検等を確実に行う

- ①活動前、活動後、必要に応じて活動中の健康観察を行い、適切な指導をしてください。
- ②アレルギーや既往症等に関して心配な点がある場合は、情報を共有しておいてください。専用の医療品等があれば、必ず持参してください。(内服薬、エピペン 等)
- ③食物アレルギーに係る弁当等の受け渡しには、必ず指導者が引率してください。
- ④けが人や急病人・事故等が発生した場合は、すぐに本館事務室(夜間の場合は、本館宿直室)に連絡してください。
 - ・本館の電話番号0237-62-4125の登録をお勧めします。
 - ・山の陰等では携帯電話の電波が届きにくいところがありますので、その対処方法についても検討しておいてください。(例：トランシーバーを借用)
- ⑤非常時の避難に備えて、非常口、避難経路、避難場所の確認をしてください。尚、事前の下検分を予定し、必ず実施するようにしてください。
- ⑥本施設の職員が、活動当日の朝に活動エリアの事前点検を行います。しかし、自然は時間が過ぎれば状況が変化しますので、直前の点検を行ってください。
- ⑦新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を整えておくことも、指導者としての大事な支援の一つです。

(2) 子どもたちの安全に対する意識を高める

- ①危険から身を守ろうとする子どもの意識を高め、実践できるように育てることが、子どもの生きる力を育てる意味でも、安全管理を強化する意味でも極めて重要です。一方的に注意を促したり情報やルールを与えたりするような支援ばかりでは、子どもたちの安全に対する意識は高まりません。子どもの意識付けには、実際の場面を取りあげて考えさせたり意味づけをしたりすることが大切です。
- ②指導者がいない場所で、事故等が起こった場合の対処の仕方について理解させておくことも、大事なリスク・マネジメントの一つです。
- ③活動場所や活動時期に応じた「服装」や「持ち物」を整えることも大切です。

(3) 正しい知識と適切な対処法を事前に理解しておく

【動物編】

★ツキノワグマ、イノシシ

最近、里山付近でも多く発見されています。熊鈴の音や人間の声等によって、遠ざかってくれます。熊鈴は、本館で貸し出していますので、森に入る際には必ず身に付けるようにしてください。なお、見つけてしまったら、絶対に騒がずに、遠ざかるようにしてください。ツキノワグマの子どもやイノシシの子どもの近くには必ず親がいますので、特に注意が必要です。どこに親がいるのかを探したりせず、静かに逃げるようにしてください。

★ニホンカモシカ

めったに人間に向かってくることはありませんが、角がとても危険です。絶対に刺激しないようにしてください。

★マムシ、ヤマカガシ

どちらも強力な毒のある蛇です。足首など素肌を出していて噛まれると、重症化しますので、噛まれても被害の出にくい服装をすることが大切です。

刺激をすると、向かってきたり飛びかかってきたりすることがあります。蛇の存在に気づいたら、1 m以内に近寄らずに遠回りして静かに立ち去ってください。危険なのは、蛇がいることに気付かずに急に藪に足を入れたり、蛇の逃げ道を塞いだりすることです。また、蛇が動かずに死んだと思っても、近寄らないようにしてください。

【対処法】 ⇒ まずは、応急処置①～⑥が必要です。

- ①噛まれた部位を確認します。噛まれたところには、2つのキバの跡が残っているはずです。
- ②毒素が体中に回るのを防ぐために、本人を動かさずに、その場に安静に寝かせます。その際、噛まれた部位を心臓より低く保ってください。
- ③患部をきれいな水で洗い流します。
- ④患部が手足であれば、患部より心臓に近いところ（5～10 cm）を脈が止まらない程度に縛ります。その後は、10分に1回90秒程度緩めて血を通わせてください。それを繰り返します。
- ⑤患部から毒を吸い出し、吐き出します。口中に傷や虫歯がある人は危険です。吸引器を使用するのが効果的です。
- ⑥精神的なショックを取り除くために、本人を元気づけます。
- ⑦応急処置が済んだら、早急に医師の診察を受けるように手配してください。

★スズメバチ 等

ハチは、黒いものに寄ってくる習性があります。野外では、白っぽい服装や白っぽい帽子を身に付け、できるだけ肌を出さないようにしてください。

また、ハチが近寄ってきたり、体に止まったりしても、手で払いのける等の刺激を与えないでください。ハチの巣を見つけたら、近づいたり石を投げたりしないでください。大

変危険です。ハチが襲ってきたら、できるだけ体を低くして、振り向かずに長い距離を走って逃げてください。一度狙われると、どこまでも追ってきます。特に黒目を狙われます。

数時間前までは異常がなかった所でもスズメバチが巣を作るために集まっているということも時々あります。

【対処法】

⇒まずは、応急処置①～④が必要。

①根元からおさえて、毛抜きなどで針を抜きます。

②爪や吸引器で、毒を絞り出します。

③患部をきれいな水で洗い流します。

④抗ヒスタミン剤を塗り、ガーゼ保護を行います。

⑤応急処置が済んだら、早急に医師の診察を受けるように手配してください。

※アレルギーショック症状が出ないかを観察してください。呼吸困難、チアノーゼ、脈拍が弱くなる等の症状があった場合は、要注意です。

※アレルギー体質かどうか、スズメバチに刺された経験があるかどうか等についても、事前調査をしておくことをお勧めします。

★マダニ、ブヨ（ブユ）、ヤブカ 等

最も危険なのは「マダニ」です。マダニは体長5mm（米粒）くらいで、生き物の血液等を吸って生きています。最近では、都市部の公園の茂みにも生育するようになりました。

森の中では草木に潜んでおり、近くを通った生き物（人間）に飛び移ります。血を吸う口には釣り針のような「返しのついたキバ」があり、皮膚に噛みつくとき、取り除こうとしても頭やキバが残ってしまいます。そして、その残った体の一部から再生し、再度、血を吸い始めます。感染症をもっているマダニもいるので、かなり危険です。

【対処法】

- 野外では、きる限り肌を出さない服装にすることをお勧めします。特に、首元から背中に侵入されるケースが多いようです。
- 刺されても、痛みやかゆみはありません。活動中は、気づくことが難しいので、帰宅後に保護者から体中を点検していただくようにしてください。
- 刺された場合は、無理にマダニの体や頭を取り除こうとせず、医師の診察を受けるようにしてください。その場合、切開せずに取り除く器具を備えている医院をお勧めします。また、ヤブカやブヨに刺され、異常に反応してしまう人もいます。その場合も医師の診察を受けるようにしてください。

【植 物 編】

★ウルシ、ヤマゴボウ、ドクウツギ、イチリンソウ 等

活動地内に多く生育しているのは「ウルシ」です。ウルシに触ったら、すぐにきれいな水で洗うようにしてください。長い時間、放置してしまうと、赤くただれてきたり、腫れ上がったりします。腫れ上がった場合には、医師の診察を受けることをお勧めします。

★カエンダケ、ツキヨダケ、テングダケ、コレラダケ 等

カエンダケは触るだけで皮膚がただれます。個人差はありますが、近付いただけで異変が起こる人もいます。自然に生育しているキノコは、どんなものであっても、勝手に採ったり持ち帰ったりしないようにしてください。

★枯れ枝の落下、倒木 等

森の中の木々は、天候等によって大きく変化します。コースの点検の際には、足元だけでなく、「頭上」にも配慮する必要があります。落下しそうな木・倒れそうな樹木については、本施設の職員が点検を実施し、できる範囲内で取り除いています。

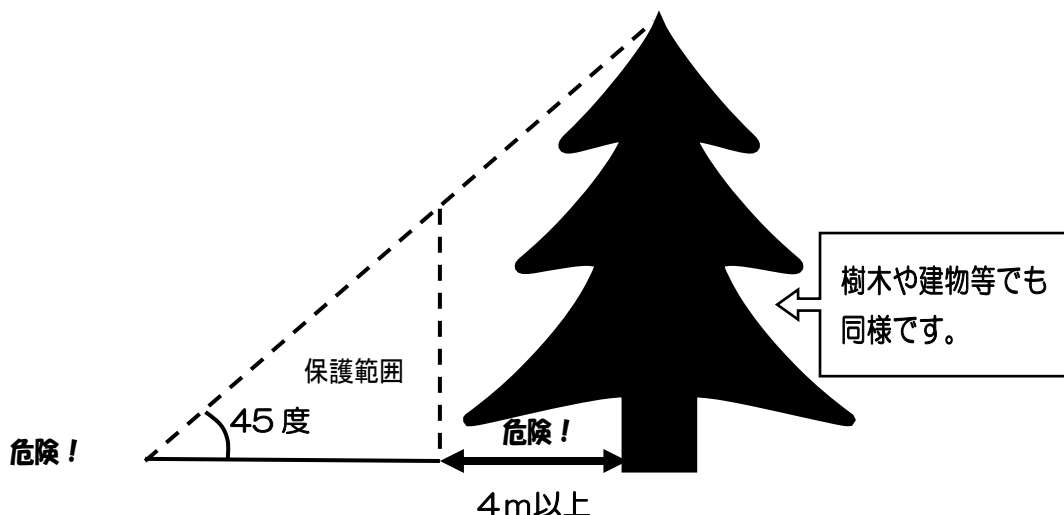
【気 象 編】

★落 雷

大気が不安定になり、雷雲（積乱雲）が発生すると、落雷の危険性が高まります。積乱雲が成長するのが見えたら、数分後には落雷の危険があると言われています。また、「ゴロゴロ」と雷鳴が少しでも聞こえたら、そこに落雷する危険があります。

【対処法】

- 近くに建物がある場合は、その中に逃げてください。軒下は危険です。
- 高いところに落雷します。建物がない平坦なところでは、できるだけ低い姿勢で様子を見てください。
- 近くに木がある場合は、真下付近を避け、木の根元から4m以上離れたところで低い姿勢になって様子を見てください。建物の場合も、軒下から4m離れます。
- 金属を持っていなくても、落雷の危険性は変わりありません。
- 電気を通さないものだけを身に付けていても効果は全くありません。



★豪 雨

平地では晴れていても、山の頂上付近は大雨…ということはよくあります。その際、鉄砲水や急な河川の増水に気を付けなければなりません。また、最近では、雷を伴ったゲリラ豪雨に見舞われることも珍しくありません。

【対処法】

- どんなに小さな川でも、突然に危険な川に変わってしまうことがあることを子どもたちに理解させておいてください。
- 山の斜面は土砂崩れの危険性があるので、できるだけ平らな土地に出る必要があることも理解させておいてください。
※天気予報、警報・注意報などの情報をこまめに確認するようにしてください。

【その他】

★熱 中 症

湿度が高く暑い日には、植物・動物等の対策や感染予防よりも、子どもたちの命を脅かす「熱中症予防」を最優先に考えることが重要です。

風通しの良い服装にすること、水分補給や塩分補給・休憩時間を確実に行うこと、帽子やタオル等で頭や首を直射日光から守ること、室内の活動や野外炊飯であっても熱中症の危険性を意識すること、子どもたちの少しの異変をも見逃さないこと等、事前の対策を万全にする必要があります。

また、猛暑日には、活動の変更や中止も視野に入れておかなければなりません。

【対処法】

- ①涼しいところに運び、衣服を緩めます。めまいを起こして倒れることがあるので、気を付けなければなりません。
- ②水平位もしくは上半身をやや高くして寝かせます。
- ③意識があり、嘔吐や吐き気がなければ、水やスポーツ飲料を飲ませます。塩分も取らせます。無理に飲ませずに、少しずつ…。
- ④体温が高い時は、水で全身を濡らし、仰いで風を送り、体温を下げます。額・首・わきの下・足の付け根の動脈を冷やすのも効果的です。

★火 傷（やけど）

自然の家には、野外炊飯・キャンプファイヤー・クラフト等、火を使う活動が多数あります。火傷の対応を間違えると、跡が残ってしまうこともあるので、適切に応急処置を行うことが求められます。

【対処法】

- ①徹底的に冷やします。服を着た上からの火傷の場合は、服を脱がさずに、服の上から流水で（冷たい水、水道水、濡れたタオル、氷を入れたタオルで）痛みがとれるまで冷やします。目安は5～20分です。ただし、広範囲にわたる火傷の場合は、体温低下の恐れがあるので、十分に気を付けます。

- ②水ぶくれがあっても潰さないように気を付けます。軟膏や消毒液は使用せず、患部を清潔に保つようにガーゼ等で保護します。
- ③火傷の程度に関わらず、医師の診察を受けるように手配してください。

★切り傷・刺し傷

出血には、以下の3つの種類があります。

- ・毛細血管からの出血：赤い色で、にじみ出るような出血。
- ・静脈からの出血：赤黒い色で、じわじわと出血。傷口を圧迫して止血。
- ・動脈からの出血：鮮やかな赤色で、勢いよく出血。止血点を圧迫して止血。

◆切り傷の場合

- ・軽い切り傷は、傷口を消毒し、ガーゼをあてておく程度で治ります。
- ・大きな切り傷は、ガーゼをあてて周りの皮膚をつまんで傷をふさぐようにします。

◆刺し傷の場合

- ・大きなものが刺さったら、無理に抜かないようにします。
- ・無理をせず、できる範囲で止血してください。動脈を傷つけると、一気に血が噴き出ることがあります。皮膚科または外科に搬送してください。

【止血方法】

- ①上肢・下肢の場合、患部を心臓より高く挙げることで止血につながります。
- ②傷口の上をガーゼやハンカチで直接強く圧迫します。包帯を少しきつめに巻くことでも、同様の効果が期待できます。
- ③それでも出血を抑えられない場合は、傷口よりも心臓に近い動脈を手や指で圧迫します。医師の診察を受けるように手配してください。

★骨 折

全身の状態を観察し、少しでも骨折の疑い（腫れ、変形、皮膚の変色、触れた時の激痛、顔面蒼白等）があれば、骨折の応急処置をします。

【対処法】・・・添え木をあてて固定する

- ①添え木に使える傘や板、それを支えるタオルや毛布等を準備します。
- ②一人は、骨折部が動かないようにしっかり支えます。
- ③添え木と皮膚の間には、タオルや毛布などの柔らかいものを十分に入れます。
- ④添え木は、骨折部が動かないように、骨折部の上下2関節を、包帯等でしっかり固定します。その際、末梢の血行を妨げない程度の強さで固定してください。骨折部が変形している時は、無理に戻さないでください。
- ⑤整形外科もしくは外科に搬送してください。移動の際、振動によって痛みが強くなるので注意してください。

★新型コロナウイルス等感染症

以下の場合、注意深く判断してください。

- ・濃厚接触者もしくは濃厚接触の疑いのある方がいる場合
- ・発熱、倦怠感、味覚異常等の感染を疑われる症状のある方がいる場合
- ・最近、感染拡大地域に往来した方、その地域の人と接触のあった方がいる場合

活動途中に発熱したり倦怠感をおぼえたりする子どもがいた場合には、「感染しているかもしれない」ということを前提にした対応をお願いします。

暑い日には、熱中症予防対策を優先し、マスクを外して活動することになります。また、息が上がるような活動においても、マスクを外すことになります。さらに、食事、入浴、就寝等においてもマスクを外すことになります。飛沫感染や接触感染の危険が高まりますので、その点を子どもたちに十分に意識させ、どのように行動することが必要なのか…具体的に捉えさせた上で活動に入るようにしてください。

本施設は、様々な利用団体の方々が出入りします。手洗いや手指消毒の徹底、本館トイレでの専用サンダルの使用、大声厳禁等についても、十分に意識させてください。

(4) A E D (自動体外式除細動器) の設置場所

A E Dとは、心臓が痙攣し、心室細動になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。A E Dを使用する際、操作方法を音声ガイドしてくれます。また、心臓の動き(心電図)を自動解析し、電気ショックの必要な場合にのみ電気ショックを与える仕組みになっています。

【A E D設置場所】 本館玄関内の事務室脇に設置。 要確認

(5) 緊急連絡の手順(例)



※緊急時の連絡先、個人の既往症(喘息、心疾患、アレルギー)等を把握しておいてください。

※利用団体が宿泊している夜間は、職員が本館宿直室におり、電話もつながります。

※最寄りの医療機関: 『白田病院』0237-62-3155

3. 最後に

事故等における初期対応や判断を誤れば、取り返しのつかない事態になってしまうこともあります。リスク・マネジメントは、子どもたちを引率する指導者の責任において、欠かすことのできない重要な支援であると考えます。引率する指導者全員で共有し、誰であっても正しい対応ができるようにしておくことも大切です。



山形県朝日少年自然の家

〒990-1101

山形県西村山郡大江町大字左沢字楯山 2523-5

TEL 0237-62-4125

FAX 0237-62-4126

E-mail : yasahisyo@pref.yamagata.jp